



SPORT FOR
**every
one**

2012年3月18日
日本発育発達学会第10回記念大会
口頭発表④ 04-7

保護者の運動・スポーツ，運動あそびに関する意識

—子どものスポーツライフ・データ2012から—

○武長 理栄(笹川スポーツ財団)，海老原 修(横浜国立大学)

研究目的

子どもの体力・運動能力低下が就学前より始まる可能性が指摘されるが、幼児期から児童期への連続性を縦断的に把握するアプローチは未着手である。そこで、全国的なサンプリングのもと、4歳児から9歳児の運動・スポーツ実施状況と保護者の運動・スポーツ参与に関する実態を把握するため、笹川スポーツ財団「子どもの運動・スポーツ活動に関する全国調査(子どものスポーツライフ・データ)」を2009年より2年ごとの継続調査として開始した。

本研究は、2011年に実施した「子どもの運動・スポーツ活動に関する全国調査」において取得したデータを用い、子どもの運動・スポーツや運動あそびに対する保護者の意識や子ども自身の運動実施状況との関連を明らかにすることを目的とした。



研究方法

笹川スポーツ財団「子どもの運動・スポーツ活動に関する全国調査」

◆対象:

- (1)母集団:全国の市区町村に在住する4歳から9歳の男女
- (2)抽出方法:層化二段無作為抽出法
- (3)地点数:市部180地点, 郡部20地点, 合計200地点
- (4)標本数:1,800人

◆方法:

訪問留置法による質問紙調査(個別聴取法併用)

◆期間:

2011年9月9日～10月6日



研究方法

◆内容:

(1)子ども対象

運動・スポーツ実施種目, 運動・スポーツ実施率, スポーツ施設の利用状況, スポーツクラブ等の組織への加入状況, スポーツ指導者の有無, ローレル指数, 習いごとの実施状況 等

(2)保護者対象

同居家族とスポーツ活動の有無, 親子で運動・スポーツをする頻度, 子どもの運動・スポーツ参加への期待, 子どもの体力の主観的評価, 運動・スポーツ, 運動あそびに対する意識や態度, 1ヶ月のスポーツ関連支出, 世帯年収 等

研究方法



◆回収結果:

有効回収数(率) 1,257 (69.8%)

◆「運動・スポーツ」の定義:

幼稚園・学校の休み時間の活動は含めるが、園・学校の授業やマラソン大会等の行事は含めない。

◆分析方法:

笹川スポーツ財団「子どもの運動・スポーツ活動に関する全国調査」で取得したデータのうち、保護者を対象とした回答を抽出した。ただし、回答者を父親および母親に限定し、父親または母親どちらかの回答があれば有効とした。これらのデータをもとに、4歳から9歳の子どもをもつ保護者の運動・スポーツ、運動あそびに関する意識や態度について分析を行った。

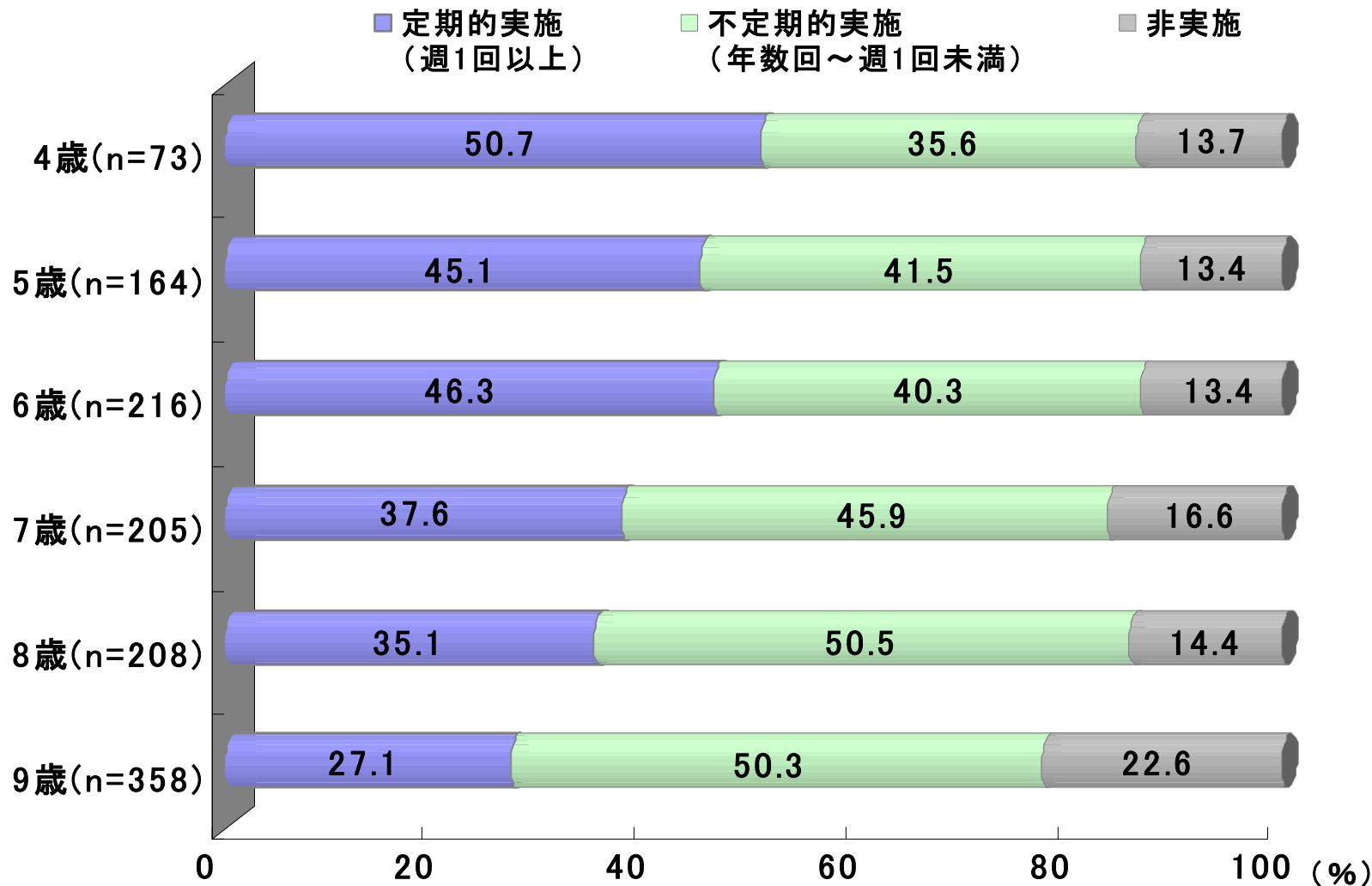
研究方法



サンプル数と属性(保護者の属性×子どもの年齢)

		子どもの年齢						n(%)
		4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	
全体	1,228	73(5.9)	167(13.4)	222(17.7)	212(16.7)	215(17.1)	368(29.2)	
父親	142	9(6.3)	13(9.2)	16(11.3)	34(23.9)	21(14.8)	49(34.5)	
母親	1,086	64(5.9)	152(14.0)	201(18.5)	171(15.7)	189(17.4)	309(28.5)	

【親子の運動・スポーツ】



保護者(父母)が子どもと一緒に運動・スポーツをする頻度(子どもの年齢別)

保護者の運動・スポーツ 実施状況

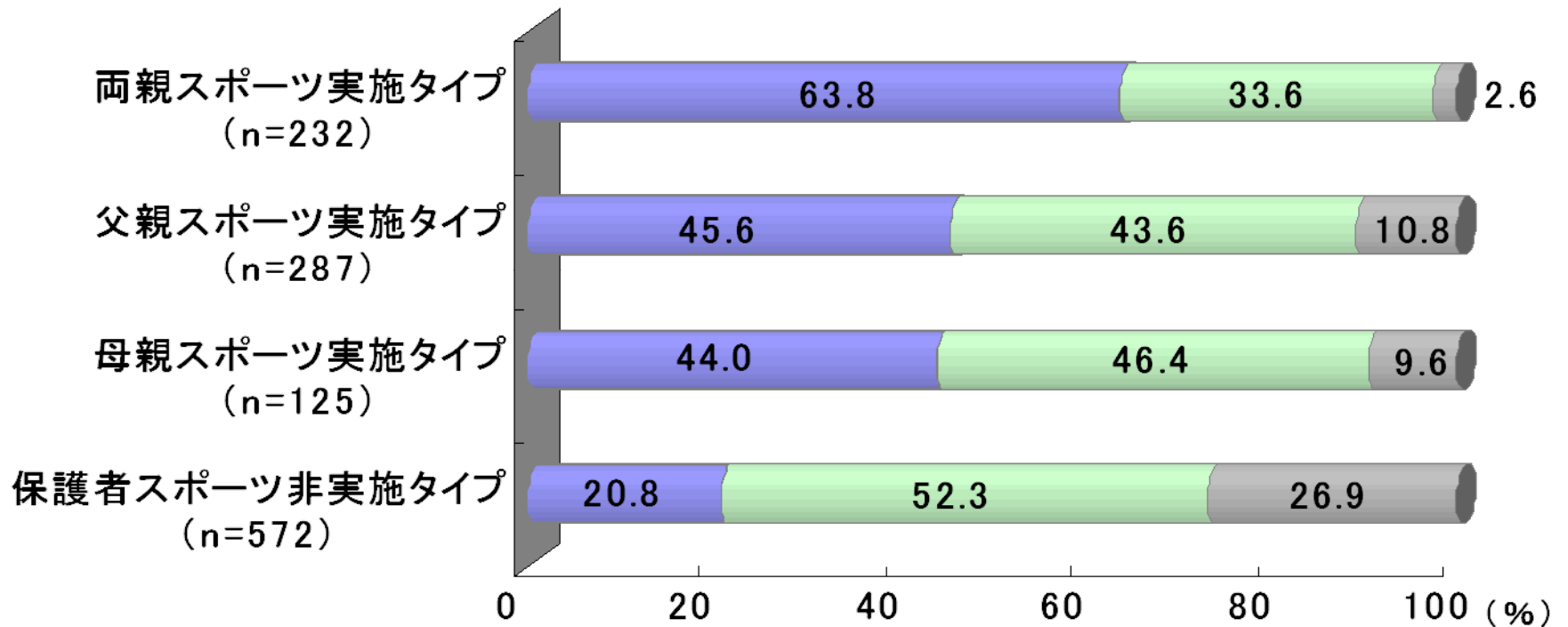


保護者の運動・スポーツ実施状況の分類

保護者の実施状況	基準
両親スポーツ実施タイプ	父親と母親の両方と同居し、かつ両親ともに日常的に運動・スポーツを実施している (「よくしている」+「時々している」と回答した者を「実施」とした)
父親スポーツ実施タイプ	父親のみが運動・スポーツを実施している (父親と同居し、母親と同居していない場合を含む)
母親スポーツ実施タイプ	母親のみが運動・スポーツを実施している (母親と同居し、父親と同居していない場合を含む)
保護者スポーツ非実施タイプ	保護者(両親ともにまたはひとり親)が運動・スポーツを実施していない (「ほとんどしていない」と回答した者を「非実施」とした)

【親子の運動・スポーツ】

■ 定期的実施 (週1回以上) ■ 不定期的実施 (年数回～週1回未満) ■ 非実施



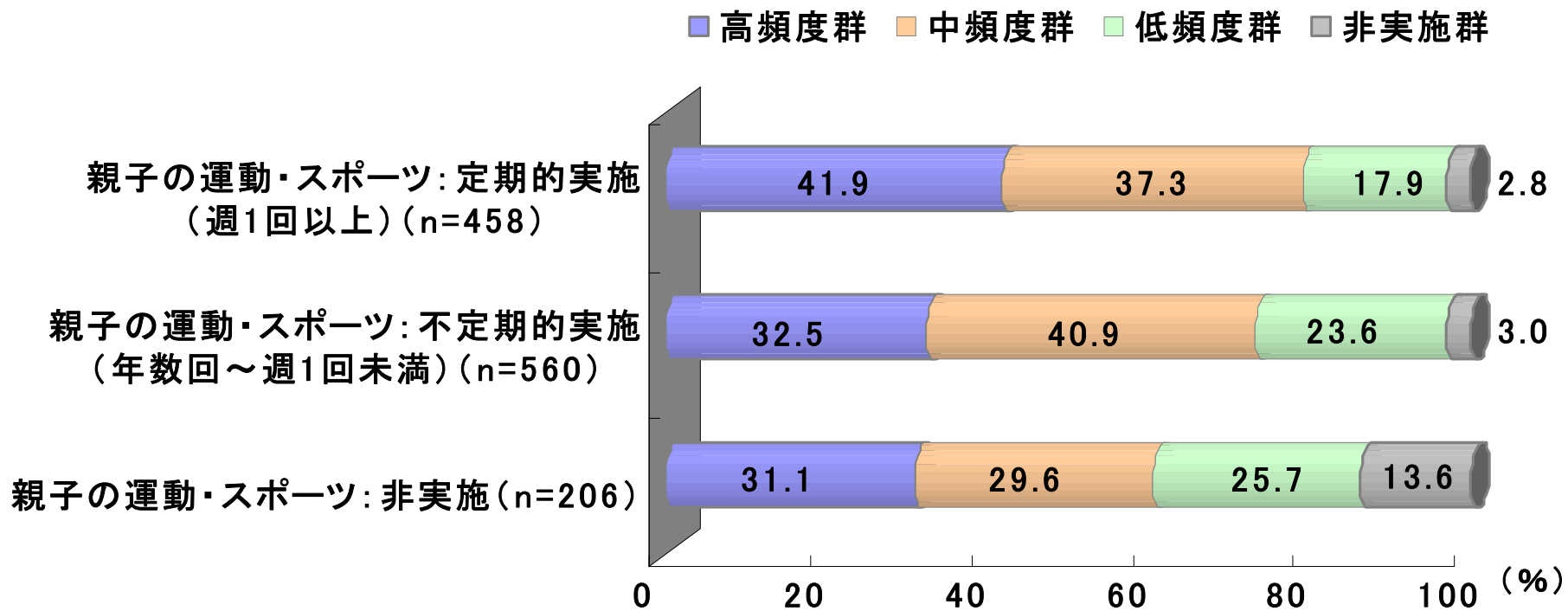
保護者(父母)の運動・スポーツ実施状況と子どもと一緒に運動・スポーツをする頻度

子どもの運動・スポーツ 実施頻度群



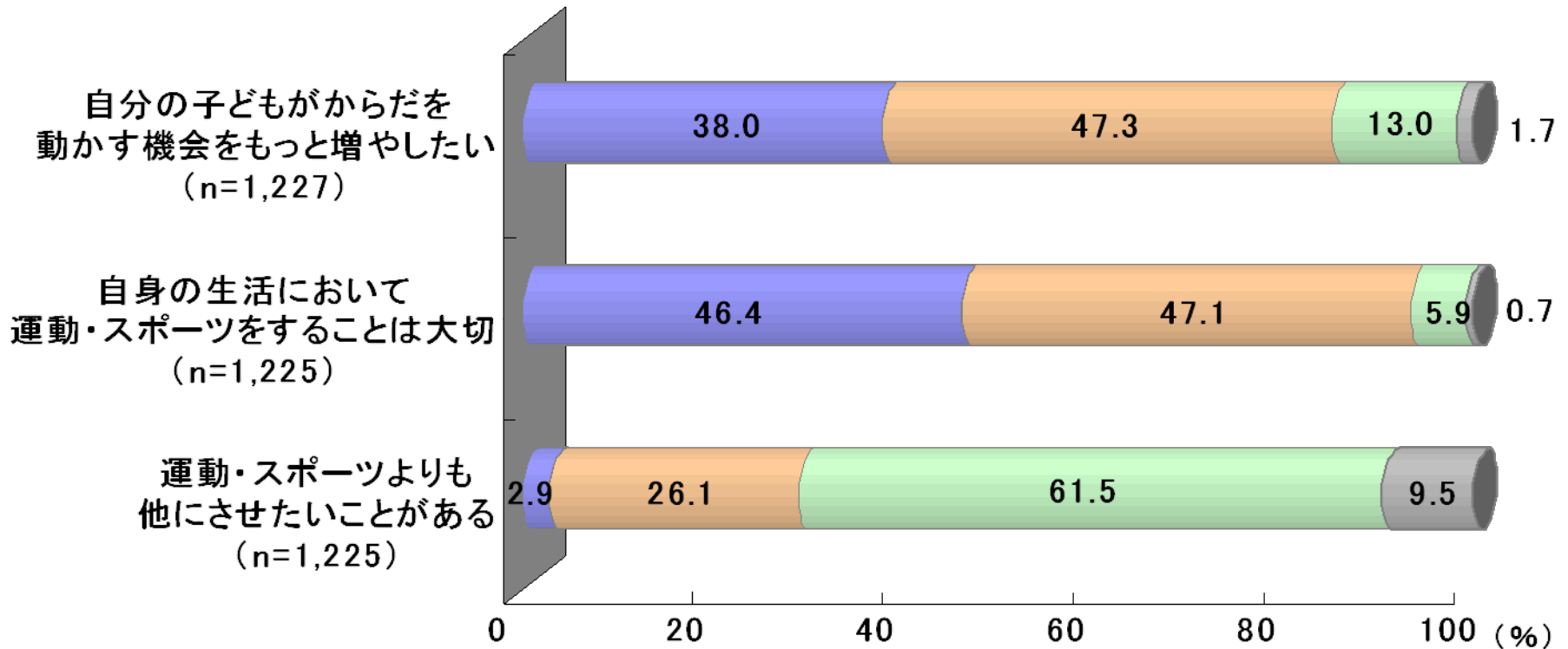
子どもの運動・スポーツ実施頻度群の分類基準

実施頻度群	基準
非実施群	非実施(0回/年)
低頻度群	年1回以上週3回未満(1~155回/年)
中頻度群	週3回以上週7回未満(156~363回/年)
高頻度群	週7回以上(364回以上/年)



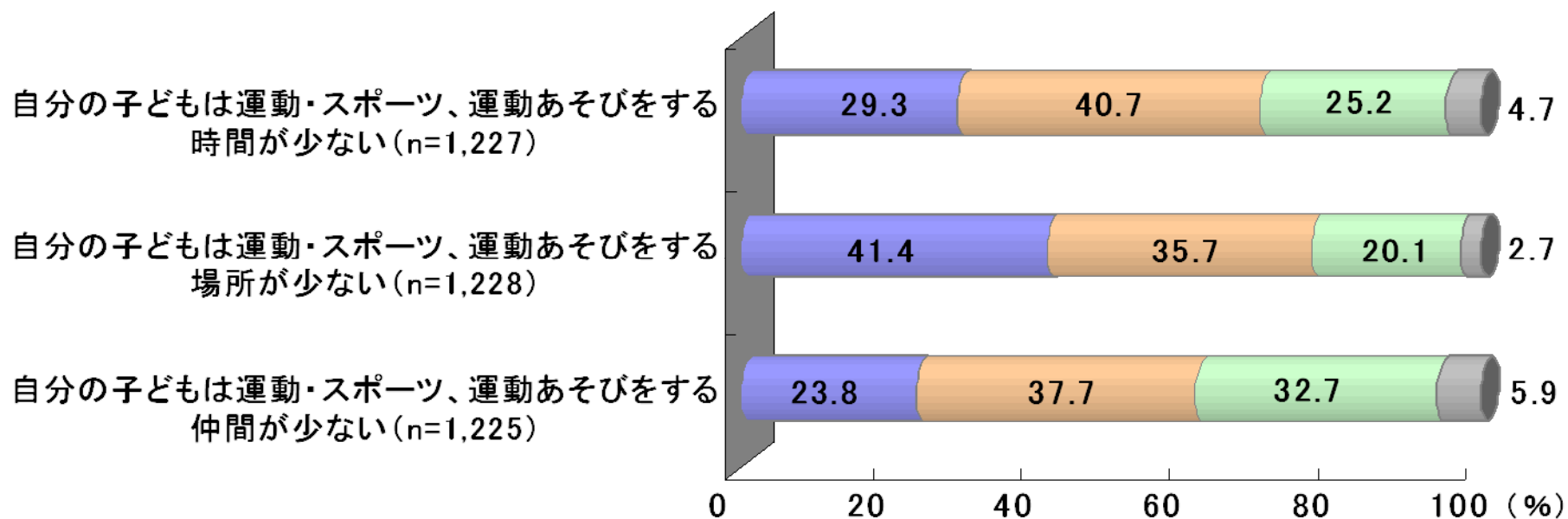
保護者(父母)が子どもと一緒に運動・スポーツをする頻度と
子どもの運動・スポーツ実施頻度群

■ とてもそう思う ■ まあそう思う ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない



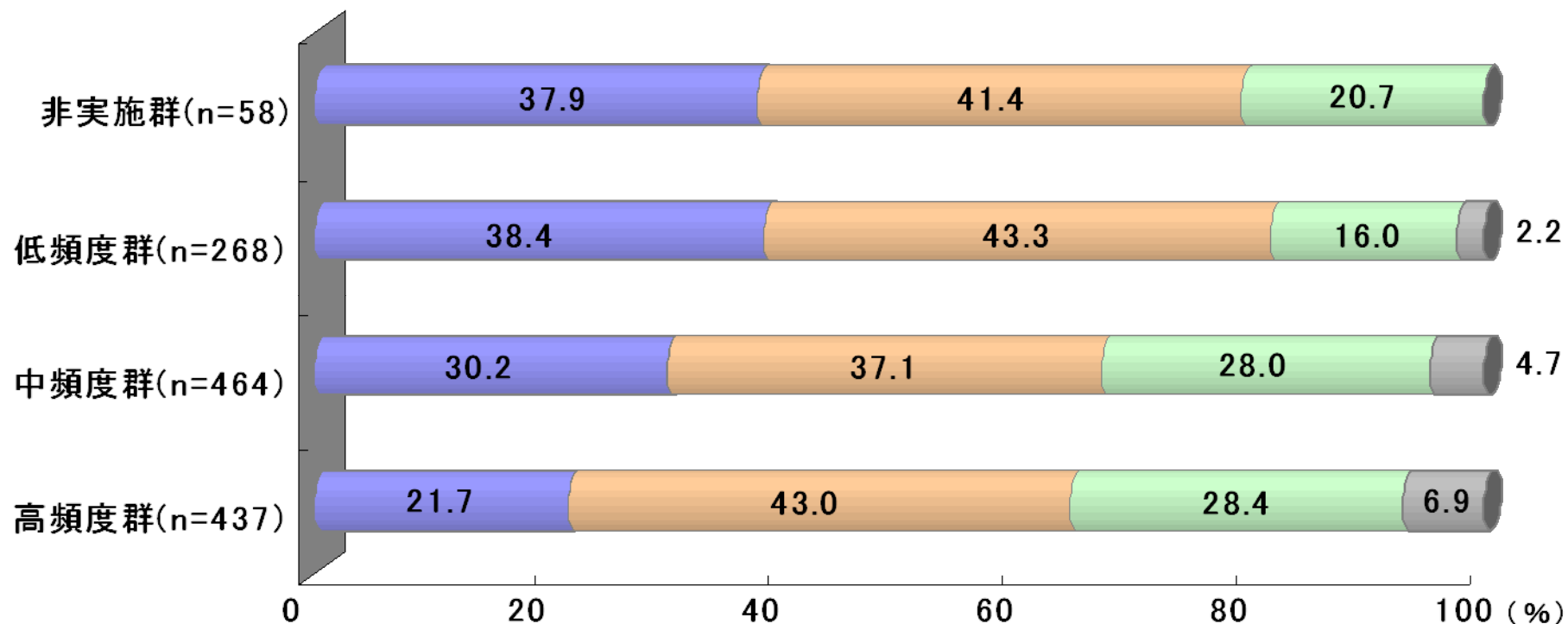
保護者(父母)の運動・スポーツに対する意識や態度

■ とてもそう思う ■ まあそう思う ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない



保護者(父母)の考える現在の子どもの運動・スポーツ, 運動あそび
実施環境に関する充足感

■ とてもそう思う ■ まあそう思う ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない



保護者(父母)の考える現在の子どもの運動・スポーツ, 運動あそび実施環境に関する
充足感と子どもの運動・スポーツ実施頻度群
(自分の子どもは運動・スポーツ、運動あそびをする時間が少ない)

要約

1. 4歳から6歳の幼児期の子どもをもつ保護者のうち、親子で運動・スポーツを全くしない者は約13%存在することが示され、「年数回から1週間未満」の者は約4割にのぼることが明らかとなった。
2. 保護者と一緒に運動・スポーツを実施している子どもほど、運動・スポーツの実施頻度が相対的に高い結果となり、保護者自身や親子での運動・スポーツ実施が、子どもの運動・スポーツ実施状況と深く関わっていることがうかがえた。
3. 現在の子どもの運動・スポーツ、運動あそびの実施環境について、6割以上の保護者が現在の子どもは運動・スポーツ、運動あそびを行う時間、空間、仲間が少ないと感じていることが示された。

